

鉾屋町 町内会だより

今年最初の 資源回収

今年の正月は雪が少なく助かっていましたが、それでも少々積もった翌日、1月22日の資源回収となりました。この次の日に、一気に20センチ近くの積雪があったので、ちょっと危ないタイミングで切り抜けたこととなります。



不定期発行

発行者
鉾屋町町内会

編集/文責/撮影
桂 汎用工房
脇田 桂一郎

印刷
小松総合印刷
株式会社

天気はいいのですが、やはり冷え込みます。

スチール缶は資源回収には出せません。毎回アルミ缶の中に混じっているスチール缶を取り分けていますが、これがけっこう大変です。



最近のスチール缶は薄手の物も多く、アルミ缶と見分けがつきにくいのかもしませんが、分別のご協力をお願いします。



今回も大量に集まるダンボール。でもこれが、日本の流通を支えているのかなと思ったり。



次回の資源回収は、3月12日の日曜日となります。皆様のご協力をお願いいたします。



今年の「旧暦の雛祭り」は、どうなるのか？

鉾屋町の春を賑わせてきた「旧暦の雛祭り」ですが、ここ3年にわたって中止されてきました。

今年の開催がどうなるか、NPO法人盛岡まち並み塾からお話がありましたのでご紹介したいと思います。

今年は、新しい形の取り組みとして「盛岡町家春祭り」を開催する予定です。会期を4月8日から30日までと長く取り、集中を避けて、その中で雛飾りも含めた様々な「春」に関する催しを行うといった形式です。

また今までと違う点として、「通行止めは行わず、歩行者天国にはしない。」「通行手形は使わない。」などがあります。

まち並み塾としては、この3年間の空白は大きく、地域の元気な姿を取り戻すため、「ゆるやかな再スタート」という感じで、近隣の理解と協力を得て、皆さんとつしよにつくりあげていきたいとのことでした。

クレイグ・モドさん 鉾屋町へ



NYタイムズの記事によって一躍注目を集めた盛岡市。

2月7日、その記事を書いたクレイグ・モドさんが再び来盛し、盛岡市役所の案内で鉾屋町を訪れました。

私は仕事で不在でしたので、盛岡まち並み塾の下向均さんから写真を提供していただきました。

当日は、盛岡市内のあちこちを回り、行く先々で時間を取って予定をかなりオーバーしていたため、鉾屋町ではあまりゆっ



くりはできなかつたそうです。それでも大慈清水など、主要なところを見て回り、番屋や製作途中の山車などを見学されました。



黒森神楽 盛岡巡行



国重要無形民俗文化財にも指定されている、宮古市の「黒森神楽」盛岡巡行が、1月22日にもりおか町家物語館で行われました。午前中に風の広場で行われる舞込みは、予約がいらないということで立ち寄りしました。

「シットギ舞込み」と呼ばれる舞が披露されます。白を中心^{うす}に、剣や杵を持った舞手が回るように演じます。



おそらく五穀豊穰や厄除けの意味があるのだと思います。付けられた方は、こんな感じですよ。(モデルは町家物語館前館長の佐藤さん)



臼を囲んで餅?を突いています。そして突いたものを来客一人の額に指で付けていきます。



その後、獅子舞が演じられます。これは火伏せの祈祷だと思われまます。鮮やかな衣装と、不思議な感覚が心に残る舞でした。



実際の餅ではなく、小麦粉か米粉を水で練ったようなものでした。



鉾屋町

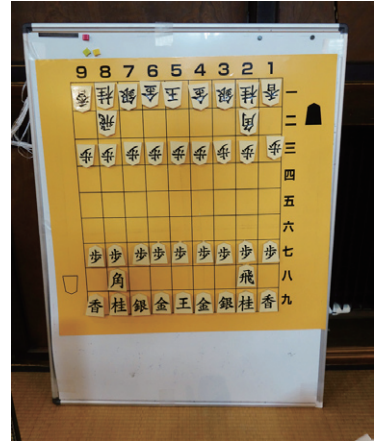
こども将棋教室

大慈清水御休み処で1月28日、2月25日と、「鉾屋町こども将棋教室」が開催されました。講師は、のぞみ将棋館 席主の小山田 政利さん。
小学生の子たちが真剣な表情で、将棋盤を見えています。



小山伶央さんのプロ棋士合格など、若い方のニュースに事欠かない将棋界ですが、まだまだ新たな風も吹きそうです。

これがTVでよく見る、あれか。



この将棋教室は、今後も月1回の予定で行われるそうです。

浜藤の酒蔵 ブックマーケット 2023



2月26日に行われたブックマーケットでは、すっかりおなじみになった「絵本読み聞かせ会」が開かれました。盛岡児童文学研究会と3・11絵本プロジェクトの方々、今回も様々な絵本を紹介します。



会場になった町家物語館DOMAには大勢のお客さんが訪れました。



また古いSPレコードの鑑賞会も行われました。李香蘭(山口淑子)さんの歌声って初めて聞きました。



編集後記

NYタイムズ、そして2月8日のIBC「わが町バンザイ」の放送などで、鉾屋町への人通りが多くなってきました。よいことである反面、もっと人が増えたら対応できるのか、と心配する方もいます。それでも春になつて世の中が動き出すのは嬉しいことです。(桂)